



# NCNPの活動

NCNP Operations and Management  
2020-2021

NCNPの地域医療への取り組みや、  
資源を活かした社会貢献、  
人材育成などの活動をご紹介します。



## 総合内科診療部

### 高度な専門知識を活かして多角的な診断・治療を

誰もが受診できる地域に開かれたNCNP病院に  
緊急受診、COVID-19感染後遺症、脳ドックにも対応

#### 幅広い疾患に対応

2021年4月に、NCNP病院総合内科診療部が発足しました。これまでは通院・入院中の患者さんの内科診療を行ってききましたが、新たに外来受診や緊急受診、検診などをスタートし、より多くの方にNCNPの医療を提供できるようになりました。

##### 【入院診療を開始】

精神・神経疾患はもちろんのこと、血液疾患、心不全、尿路感染症、肺炎、消化管穿孔、敗血症など様々な疾患の患者さんを対象に入院診療を行っています。初期治療を行い、症状に応じて転院あるいは希望があれば当院で診療を続けます。

##### 【開かれた緊急受診】

緊急受診においては、患者さんのどのような訴えにも対応すること、診療を断らないことを心がけています。少人数の医師で対応していますが、できるだけ近隣医療機関や施設などのご希望に応えられるよう努めています。

##### 【脳ドックの開始】

血液検査、頸動脈エコー、頭部MRI・MRAを行う脳ドックを始めました。当院の脳ドックの検査は半日で終わり、その後すぐに専門医（脳神経内科、脳卒中、総合内科）から説明が行われるという迅速さが特徴です。

##### 【筋痛性脳脊髄炎／慢性疲労症候群の診療】

神経研究所・免疫研究部の医師と共に、筋痛性脳脊髄炎／慢性疲労症候群の患者さんの診療を行っています。研究所と一体となって研究・診療を行うことを具現化しています。

#### COVID-19感染後遺症診療

COVID-19感染症が世界中で猛威を振るう中、COVID-19感染の後遺症としての精神・神経症状が問題になってきています。当センターの精神保健研究所では「コロナに負けない心のケア」と題してこの問題に取り組んでいます。さらに、病院でもCOVID-19感染後遺症に真正面から取り組んでいくことが決定し、COVID-19感染後遺症外来とその入院診療を、総合内科診療部で開始しました。

COVID-19感染後遺症の症状は、筋痛性脳脊髄炎／慢性疲労症候群と類似した性質を持つことも分かってきました。そこで当診療部では神経研究所・免疫研究部と合同で、入院診療と研究を行っています。

また、COVID-19ウイルスワクチンを接種した人が徐々に増えていく中で、ワクチン接種後に筋力低下や感覚障害などの症状を訴える方が一定数いらっしゃいます。このような症状の患者さんも当診療部で受け入れ、必要な場合は入院診療を行っています。当初予想されるよりも拡大した形で、精神保険研究所、神経研究所と連携して診療を行っています。

まだ不明なことの多い分野ですが、この診療の成果を直接診療させて頂いている方々のみならず、国民の皆様に、臨床・研究で還元できるように精進して取り組んでまいります。



総合内科診療部のメンバー



診察室の様子

## 訪問看護ステーション

### 多職種チームによる精神科アウトリーチ支援

希望や生きる力を大切にし、  
その人らしい地域生活や自己実現へ向けての訪問支援

#### 生きづらさを抱えた方のリカバリーに寄り添う

NCNPの訪問看護ステーションは、病院内での精神科訪問看護から、多職種チームによる「指定訪問看護ステーション」となり6年が経過しました。当訪問看護ステーションは、医療とうまく付き合えず再発を繰り返す方、社会的孤立の状態にある方、治療抵抗性の精神疾患の方など、病気や障害によって生きづらさを抱えた方のリカバリーに寄り添うことを理念にしています。そのため、精神面や身体面の支援だけでなく生活支援・リハビリテーション・制度や福祉の利用・就労支援などのニーズに対応しています。看護師、作業療法士、精神保健福祉士、チーム精神科医で構成されており、各職種の強みを生かしアウトリーチ支援を行っています。

#### NCNP病院との連携によるシームレスな支援

当チームはNCNP病院と密接な連携ができることが最大の強みです。外来主治医との連携のみならず、入院となった場合も退院後の生活を見据えてシームレスな関わりを行っています。訪問スタッフが直接病棟に向き、ご本人やスタッフと退院後の生活課題を共有し、退院準備をしています。

コロナ禍においては、感染予防の観点から病棟内での入院中の患者さんへの直接的な介入が難しい状況になっています。

そこで、当チームと病院のスタッフがカンファレンスや電話で情報と課題を共有しています。そして、当チームの病院との兼務の精神保健福祉士が患者さんと面接をし、地域生活に向けた準備を進めていきます。退院直前のカンファレンス時にはタブレット端末を用いて、顔の見える関わりを持つようにしています。



チームによるケースカンファレンスの様子

#### 患者さんの自己実現を応援

患者さんにはそれぞれ「一人暮らしがしたい」「将来安心して暮らしたい」「就労したい」「勉強がしたい」「好きな人と楽しく暮らしたい」「痩せてきれいになりたい」…等個々の希望があります。その一方で「症状や薬の副作用が辛い」など差し迫ったつらさもあり、その声に、寄り添って、具体的な対処を一緒に考え、取り組む支援を行っています。

また、「就労したい」という希望を応援するため、就労担当の精神保健福祉士と作業療法士が小平市社会福祉協議会、生活相談支援センターと協同し「中間的就労プロジェクト（仮）」を立ち上げています。

#### 訪問家族支援の実施

患者さんは精神疾患によるつらい体験をしますが、ご家族もまた戸惑い、不安になります。疾患が再発することには、ご家族との関わりが大きく影響していると言われています。

当チームには、イギリスで開発された「メリデン版訪問家族支援」という家族支援のプログラムの基礎研修を修了したファミリーワーカーが2名おり、ご家族一人一人の思いを伺い、家族ごと患者さんを支援する「ファミリーワーク」にも取り組んでいます。

### 専門疾病センター 「こころのリカバリー地域支援センター」

| センター 臨床部門  | 研究 司法地域研究部 研究/研修部門統括   |
|--|--|
| <b>【急性期病棟】</b><br>・入院時からの心理社会的ニーズを踏まえた治療・ケアの向上<br>・アウトリーチ、デイケアなどリハビリ部門へのオフナー   | <b>【研究/研修担当】</b><br>・入院時からの心理社会的ニーズを踏まえた治療・ケアの向上<br>・アウトリーチ、デイケアなどリハビリ部門へのオフナー/スムーズな連携のためのシステム作り |
| <b>【多職種アウトリーチチーム】</b><br>当センター 訪問看護ステーション<br><b>Psychiatric Out Reach Team: PORT</b><br>・医療からの訪問支援<br>・多職種チーム（看護師、作業療法士、精神保健福祉士、医師）<br>・地域関係機関との連携と地域づくり |  |
| <b>【リハビリテーション（デイケア）】</b><br>・デイケアにおける医療リハ<br>・ステップアップとしてのデイケア  |  |

訪問看護ステーション 組織と役割

## 看護活動

### 病床管理体制強化のための ベッドコントロール看護師長の新設

#### 地域に寄り添う病床運営をめざす

NCNP病院看護部は、より迅速・円滑に入院治療を提供し、地域医療に貢献するため、2021年4月より「ベッドコントロール看護師長」を新設しました。ベッドコントロール看護師長は医療連携福祉相談室にデスクを置き、医師や外来・病棟スタッフ、地域との連携など様々な調整や、病床運営状況の情報発信などの病床管理業務を専従で行っています。これにより、各病棟の業務状況をタイムリーに把握し、病院全体の病床運営に反映することができます。また、病床管理に関するデータを可視化し、病院全体に計画的な入退院調整ができるように努めています。さらに、これまでは外来と病棟の看護師長が担っていた病床管理業務の負担を軽減させ、本来の看護管理の充実、看護の質の向上につながっています。

#### <ベッドコントロール看護師長の主な業務>

##### ①緊急時の病床確保

毎日ベッドコントロール会議で各病棟の空床・業務状況を把握し、当院外来や地域の病院・診療所から緊急入院依頼が来た時に、病状や治療内容に応じた病床を確保し、迅速・円滑に治療を開始できるようにしています。

##### ②データの集計・分析と発信

入退院に関する過去のデータを定期的に発信して、病床管理の目標や課題を共有。目標達成や解決に向けた協力体制を支援しています。

今後は、その人らしい地域生活へ円滑に移行するための退院支援を入院前から行う体制を強化することを実現し、地域に寄り添う病床運営を目指しています。



業務にあたるベッドコントロール看護師長

## 公開活動

### 世界脳週間イベントオンライン開催 高校生対象に講演と交流会

#### コロナ禍での初の試みに多数の参加

NCNPは、「世界脳週間」（主催・NPO法人脳の世紀推進会議）に毎年参画しています。このイベントは、脳の研究をよく理解してもらうことを目的とした国際的活動の1つです。

当センターでは高校生の皆さんに脳・神経・筋についてと、それらの病気の最先端についての研究を紹介しています。2020年度はコロナ禍のため、例年行ってきたホールでの講義と研究室訪問・体験ではなく、初めての試みとしてオンラインでのイベントを2021年3月13日（土）に開催しました。

前半は「小児科医の私が伝えたい筋疾患研究の魅力」（疾病研究第一部・大久保真理子）「神経細胞の旅立ち」を科学する研究者のはなし」（病態生化学研究部・有村奈利子）の2演題の講演。後半にはNCNPの10の研究部と参加者が、5つの小グループに分かれて、研究内容の紹介、研究者への質問など対話による交流を行いました。参加者からは「研究内容がわかりやすく解説されて楽しめた」「これからの進路選択に参考になった」など高評価を頂きました。また、「地方からでも参加できるように今後もオンライン形式のイベントを行って欲しい」という意見もあり、今後の公開活動に生かしていきたいと思えます。

#### 参加者所属校リスト（順不同）

東京都立日比谷高等学校 東京都立多摩科学技術高等学校  
豊島岡女子学園 釧路工業高等専門学校 秋田南高校  
茨城県立日立第一高等学校 桜蔭高校 私立武蔵高校  
青山学院高等部 都立国際高校 洗足学園高校  
愛知県立岡崎高等学校 南山高校 京都市立堀川高校  
鹿島朝日高等学校 徳島北高校 木津川市立山城中学校



オンラインでのグループ対話の様子（下段のアイコンは高校生の参加者）

## 研究倫理

### 倫理委員会

#### 第三者の立場で公正に審査する

NCNPでは、医学系研究が「ヘルシンキ宣言」に沿って、研究に参加する全ての方の人権、安全及び福祉に配慮して行われるよう、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」等のルールに従い計画されているかを、倫理委員会において公正に審査しています。

倫理委員会の委員は、法的・倫理的・社会文化的にも、異なった分野の皆さまの意見が取り入れられるよう構成されています。研究機関及び研究者等が自分たちの利益を優先することがないように、倫理のおよび科学的に適切な判断が求められています。研究計画が医学的に認められるか、研究に参加する方の人権（生命、身体、自発的な協力の気持ち等）を守ることができるか、という点を中心に、様々な視点から審査を行っています。研究の発展につながるよう研究者と研究参加者の間のバランスをとることが委員会の使命です。

### 臨床研究審査委員会

#### 厚生労働大臣認定を受け質の高い審査を実施

2018年4月1日に「臨床研究法」という法律が施行されました。臨床研究法では、医薬品等を人に使用することによって、その医薬品等の有効性・安全性を明らかにする研究を臨床研究と言います。NCNPでは、厚生労働大臣の認定を受けた臨床研究審査委員会を設置し、ナショナルセンターとしての機能を果たすべく、NCNP内部だけではなく、外部機関の研究者からも法の対象となる研究の審査依頼を受付ける体制を整えています。

委員会に所属する委員は、医学または医療の専門家、臨床研究の対象者の保護および医学医療分野における人権の尊重に関して理解のある法律の専門家、生命倫理に見識を持つ人、一般の人で構成されています。また、研究内容に応じた専門家による意見をふまえて、臨床研究の対象者の生命、健康および人権を尊重し、法律に定められた臨床研究の基本理念に従い審査しています。

### 臨床試験審査委員会

#### 新しい治療法を人権と安全の保護のもとで

有効で安全な医薬品や医療機器、再生医療等製品を広く患者さんが利用できるようにするには、「医薬品医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」という法律のもと、国の承認を得るための臨床試験（治験）を行う必要があります。今までにない新しい治療法が有効なのか、安全なのかは、まだわかりません。そのため、治験は科学的根拠に基づき、患者さんの人権保護と安全確保について十分に配慮して行われなければなりません。治験が科学的・倫理的に正しく実施できるかを審査するのが臨床試験審査委員会です。この委員会は、専門委員、非専門委員、外部委員で構成されており、治験に関する厳しい基準（GCP省令）に沿って、公正に審査しています。

現在、COVID-19感染症の影響により対面会合が難しい状況ですが、WEB会議システムを利用したオンラインでの開催等の審査体制を整え、治験が適正に実施できるようにしています。



倫理委員会の様子



臨床研究審査委員会の様子

# 人材育成

## NCNPの医療・研究の技術を広げる活動

NCNPでは各部門の医療・研究実績を生かした多くのセミナーを行っています。

研究支援、精神保健、技術、治療について多彩な研修を実施しており、医療者・研究者の育成・臨床研究の充実を目指しています。また、リーダーとして医療・研究の場で活躍できる人材の育成を目指して、重点的な取り組みを行っています。

2020年はCOVID-19感染症の流行のため、中止や延期、規模の縮小を余儀なくされた研修もありましたが、一方でオンラインでの開催により受講者数が大きく増加した研修もあり、受講者合計は昨年を上回りました。

### 2020年度 研修の実施状況

◆主に外部の若手医師・研究者、メディカルスタッフ、企業人などを対象とした研修

|      |  | 受講人数                    |
|------|--|-------------------------|
| 研究支援 | TMC 臨床研究研修制度 (Clinical Research Track) | 内外若手研究者 455人            |
|      | 臨床研究に携わる人のための生物統計学講座                   | 内外若手研究者 246人            |
|      | 医学英語論文ライティングに関する実践的なセミナー               | 内外若手研究者 56人             |
| 精神保健 | 精神保健に関する技術研修課程                         | 精神保健に従事する医療関係者 310人     |
|      | 精神保健指導課程研修                             | 市町村・都道府県の精神保健行政に関わる者 中止 |
| 技術   | 光トポグラフィー実践研修                           | 医師等 延期                  |
|      | 腰椎穿刺の研修                                | 医師 中止                   |
| 治療   | 認知行動療法 (CBT) 研修                        | 医療従事者 652人              |
|      | PTSD 対策専門研修                            | 医療従事者 1,226人            |
|      | 認知リハビリテーションに関する実践研修                    | 医療従事者 中止                |
|      | 包括的暴力防止プログラム研修                         | 医療従事者 中止                |
|      | 夏の筋病理セミナー                              | 医療従事者 14人               |
|      | RST (呼吸ケアサポートチーム) 公開講座                 | 医療従事者 中止                |
|      | 電気けいれん療法 (ECT)                         | コメディカル (院内) 69人         |
|      | 院内看護師臨床教育研修                            | 看護師 (院内) 97人            |
|      | PTSD 持続エクスポージャー療法臨床教育研修                | 医療従事者 20人               |
|      |  | 合計 3,145人               |

## 第27回NCNP小児神経セミナー

### 若手小児科医師を対象にした2日間小児神経学を学ぶ歴史あるセミナー

NCNPでは、小児神経専門医取得を目指す若手小児科医を対象にNCNP小児神経セミナーを毎年夏に開催しています。27回目の開催となった2021年はCOVID-19感染症流行の影響により、初めての完全Web開催となりました。今回は全国から39名の小児科医師が参加しました。NCNP常勤医師が、小児の神経学的診察法、てんかん・筋疾患・発達障害などの診断および治療法、遺伝学的検査の基礎知識や頭部MRI画像の読み方など、すぐ使える講義を7月10日(土)、11日(日)の2日間にわたり行いました。受講者の方々からは、自宅に居ながら参加できたのはよかった、内容が充実していた、日常診療にすぐ実践したい、NCNPで研修を受けたくなったなど多くの感想をいただきました。

| 7月10日(土)    |                           | 7月11日(日)    |                             |
|-------------|---------------------------|-------------|-----------------------------|
| 9:00-9:55   | 開講挨拶 佐々木佳行                | 9:00-9:55   | 小児神経画像診断学 佐々木佳行             |
| 10:00-10:50 | 神経学的診察所見のとり方 齋藤良志         | 10:00-10:50 | てんかんの内科的治療 佐々木佳行            |
| 11:00-12:10 | てんかんの診断(基本編) 馬場信平         | 10:40-12:10 | てんかんの内科的治療 佐々木佳行            |
| 休憩          |                           | 休憩          |                             |
| 12:40-13:40 | 小児における神経伝達検査と新薬薬理の基礎 石山晴彦 | 12:40-13:40 | てんかんの外科的治療 岩崎真樹             |
| 13:50-14:50 | 小児神経疾患の臨床遺伝学 竹下龍星         | 13:50-15:00 | 小児期発症の神経疾患患者の長期フォローアップ 本橋裕子 |
| 15:00-16:20 | 発達障害の診断と薬物療法 中田実二         | 15:10-16:10 | 筋疾患の診断と治療 小牧宏文              |
| 16:30-17:30 | 症例検討会                     | 16:10-16:15 | 閉講挨拶 佐々木佳行                  |

実施したプログラム

## 脳神経内科短期臨床研修セミナー

### 臨床・研究の最前線に触れる2日間

2021年7月5日、6日の両日に、第17回脳神経内科短期臨床研修セミナーを開催しました。若手脳神経内科医を対象に、臨床に役立つ実践的な知識を習得するとともに、臨床・研究の最前線に触れていただくことが目的です。本年度は昨年度に続きハイブリッド方式で開催され、現地参加8名、Web視聴42名でした。水澤英洋名誉理事長・特任理事長補佐をはじめ、当センターの最前線に立つ医師・研究者が、講義と実習を行いました。内容は小脳失調症、神経画像、神経病理、MSとNMO、てんかんと脳波、神経生理、パーキンソン病と関連疾患、不随意運動の診断と治療、筋疾患、認知症、神経遺伝学、嚥下機能検査、ボツリヌス毒素治療、人工呼吸器療法、臨床研究、DBSとLCIG、研究所見学、診察見学、クリニカルカンファランスと多岐にわたり、参加者からは大変充実した研修だったとの感想を多数いただきました。



電気生理実習の様子

## 精神保健研究所の研修活動

### オンライン研修で遠隔地からも受講

精神保健研究所は1949年1月、アメリカのNIMHをモデルに厚生省の付属機関として設置され、当初より、精神衛生に関する諸問題について、精神医学、心理学、社会学、社会福祉学、保健学等の専門家による総合的、包括的な研究と活動を行い、地域精神保健の向上のための普及活動を行うことを目標としておりました。その使命に基づき、1959年以降、多くの研修が実施され、地域での精神保健福祉医療等に関わる多くの臨床家、行政関係者等が受講し、日本の地域精神保健医療の向上に寄与してきました。

2020年度はCOVID-19の影響がありましたが、オンライン研

## 認知行動療法センターの研修活動

### オンデマンド配信、より広く、より便利に

COVID-19感染症の対策として、認知行動療法センターではオンデマンド型の研修を展開しています。オンデマンド研修では、あらかじめ作成された映像コンテンツを配信期間中に様々なデバイスから、いつでも、どこでも、何回でも視聴することができます。2021年度にはオンデマンド研修を充実させ、全部で9研修を提供しております。今年度は、研修内容について、ウェブシステム上から講師に質問することができ、活発なやり取りがされています。

また、厚生労働省による2021年度 認知行動療法研修事業(一般社団法人認知行動療法研修開発センター受託)の再委託を受け、社交不安症やパニック症に対する認知行動療法、心的外傷後ストレス障害に対する持続エクスポージャー療法(精神保健研究所 金吉晴所長)や認知処理療法の研修を提供しています。



オンデマンドコンテンツの画面

修を活用するなど、感染対策を徹底して再開しました。オンライン研修により前年度よりも受講者が飛躍的に増加したのもあり、遠隔地の方も参加できるというメリットがみられました。今後は、対面・オンラインの双方の利点を生かしつつ、一層の発展を目指します。

### 2020年度精神保健に関する技術研修課程 実施一覧

| 開催年月     | 研修内容                                     |
|----------|--|
| 2020年11月 | [第1回] 発達障害者支援研修: 指導者養成研修パートⅢ(Web)        |
|          | [第12回] 認知行動療法の手法を活用した薬物依存症に対する集団療法研修     |
| 2020年12月 | [第6回] 災害時PFAと心理対応研修(Web)                 |
| 2021年1月  | [第1回] 発達障害者支援研修: 行政実務研修(Web)             |
| 2021年3月  | [第5回] 災害時PFAと心理対応研修(9月の振替)(Web)          |
|          | [第1回] 発達障害者支援研修: 指導者養成研修パートI(7月の振替)(Web) |

## TMCの研修活動

### 臨床現場での疑問を研究デザインへ

トランスレーショナル・メディカルセンター(TMC)では、医療従事者であれば誰しも持つ臨床現場での疑問(clinical question)を、研究疑問(research question)として構造化する過程を支援します。学びのきっかけの場として、臨床研究入門講座ワークショップを開催し、小グループでの演習や生物統計家を交えたピアレビュー、参加者による白熱したディスカッションを通して、漠然とした疑問を検証可能な研究疑問、さらに具体的な研究デザインに変換するトレーニングを行います。

また、生物統計セミナーや臨床疫学セミナー、モニタリング・データマネジメントセミナー、研究倫理講習会、Meet the Expert・医学英語セミナー等、臨床研究の計画、データ信頼性確保、統計解析、論文文化に関する知識習得につながる教育研修の機会も提供しています。



2021年度臨床研究入門講座ワークショップのポスター

## 連携大学院

### 連携大学院 国内12大学 連携協定機関 国内外7機関

#### 連携大学院制度、人材交流、 研究開発の連携強化

NCNPでは、国内外の大学または研究機関等と連携協定を締結し、共同研究の実施、合同シンポジウム等を通じて、精神・神経疾患等における研究開発の連携強化および専門家の育成に取り組んでいます。

2021年度には、国内では12の大学と連携しており、連携大学院制度により、のべ52名のNCNP職員が連携大学院教授や連携大学院准教授等を委嘱され、大学の講義を持つ等、学生の指導を行い、研究生の受け入れ等の相互交流を実施しています。この連携大学院制度によって、NCNPのメンバー（職員）も受験して大学院生になることで、NCNPで最先端の研究を続けながら学位取得を目指すことが可能となり、2020年度は、12名が修士または博士の学位を取得しました。

また、医学や科学技術の発展のため、国内外の研究機関等と人事交流を行い、研究員や医師等を実習・研修の場に受け入れることで専門家の育成に協力しています。

#### 連携中の大学・機関（2021年9月現在）

- ・学校法人 早稲田大学
- ・国立大学法人 東京医科歯科大学
- ・国立大学法人 山梨大学
- ・国立大学法人 千葉大学
- ・国立大学法人 東京農工大学
- ・学校法人 東邦大学
- ・国立大学法人 東京大学
- ・国立大学法人 東北大学
- ・国立大学法人 お茶の水女子大学
- ・公立大学法人 横浜市立大学
- ・東京慈恵会医科大学
- ・学校法人 明治薬科大学
- ・オックスフォード大学 MDUKオックスフォード神経・筋疾患研究センター
- ・マヒソン大学シリラート病院
- ・プラサート神経学研究所
- ・国際原子力機関 (IAEA)
- ・国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所
- ・独立行政法人医薬品医療機器総合機構
- ・公益財団法人東京都医学総合研究所



2021年9月に行われた東京慈恵会医科大学との連携協力に関する協定書の調印式



研究に参加する東京医科歯科大学の大学院生

## 産学官連携

### 研究成果を産業で有効に活用し 社会に貢献

#### 患者さんに自宅でできるトレーニングを

NCNPでは、企業や大学との共同研究や知的財産等のライセンスを通じて研究成果を産業界で有効に活用できるよう、産学連携活動を積極的に行っています。2020-2021年の産学連携トピックスのなかから、「パーキンソン病患者のための発声・発語トレーニング【ボイス】」をご紹介します。

NCNP病院の身体リハビリテーション部と、パーキンソン病患者さんが経営するボイストレーニングスクールとで共同研究を行い、言語聴覚士の知識とプロのボイストレーナーのノウハウを合わせて、パーキンソン病の患者さん向けの声の自主トレーニング用動画を作成しました。この動画は、パーキンソン病のための運動継続プログラムを実施している企業に利用許諾を行い、2021年7月よりDVDとして一般販売されました。内容は全体で45分程度。イントロダクション→スマイル・トレーニング→発声練習→短音練習→滑舌・音読練習→情報伝達・発話練習の構成となっており、DVDの視聴及び模倣のみでトレーニングの実施が可能です。

パーキンソン病に伴う運動性構音障害には音声訓練が有用ですが、外来での継続的な訓練は難しい場合も多いのが現状です。このDVDを活用することで通院が困難な患者さんも、自宅や特別養護老人ホーム等で簡単なトレーニングを継続的に行うことができます。



開発されたDVD



トレーニング動画の画像

## 広報活動

### NCNPが取り組む最新の医療・研究成果を知っていただくための活動

#### 報道メディアに向けて

#### 第7回NCNPメディア塾

#### ジャーナリストとNCNPの共創の場 初のオンラインによる開催

NCNPの第一線の研究者・医師たちとジャーナリストが交流する「NCNPメディア塾」。本年度は、講義とディスカッショントークを合わせ社会的関心の高いテーマについての議論を深めました。NCNPメディア塾はNIH（米国立衛生研究所）の活動をモデルとして2014年度よりスタートし、今年度は7回目の開催となりました。

講義は、コロナ禍におけるメンタルヘルス研究の現状と課題、ゲノム編集技術を用いた先端研究と近未来医療への応用、アスリートのメンタルヘルス研究への取り組み、注意欠如・多動症（ADHD）の理解と支援をテーマに取り上げました。初のオンラインによる開催で、北海道、九州など地方メディアの方々も含め、最終的に23社48名の方々にご参加いただきました。



コロナ禍でのメンタルヘルスをサポートする非接触型のシステム構築

中込 和幸（なかごめ かずゆき）  
国立精神・神経医療研究センター  
理事長



ゲノム編集の最前線

井上 高良（いのうえ たかよし）  
神経研究所  
疾病研究第六部 室長



日本スポーツ界に求められるメンタルヘルス支援の現状とこれから

小塩 靖崇（おじお やすたか）  
精神保健研究所  
地域・司法精神医療研究部 研究員



注意欠如・多動症（ADHD）であることは何を意味するか：診断と治療の課題

岡田 俊（おかだ たかし）  
精神保健研究所  
知的・発達障害研究部 部長



メディア塾 ディスカッショントークの配信風景

#### プレスリリース・記者会見

報道各社に向けて継続的な情報配信を行っています。最新の医療・研究について積極的にプレスリリースをするほか、記者会見などを通して、NCNPの医師や研究者たちとメディアの交流を積極的にサポートしています。

2020年度以降、プレスリリース60本（2021年9月現在）、オンライン記者会見も適宜開催しています。



筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群の新たな免疫バイオマーカーの発見についてのオンライン記者会見の様子（2021年4月）

#### みなさまへ

#### ホームページ・SNSからの発信

NCNPの情報をタイムリーにお伝えするため、NCNP公式ホームページやSNSによる発信を行っています。

公式Twitterではホームページの情報だけではなく、TVや講演の出演情報など幅広く発信しています。

2021年には病院の公式InstagramとFacebookを始めました。地域に開かれた病院を目指し、診療情報はもちろん、職員の様子や病院の日常風景なども、日々発信しています。

また、YouTube公式チャンネルでは、市民公開講座の動画も配信しています。



病院のInstagram